

『愛と信仰と応答と』ヨハネ4:43-54

4:43 ぶつかの後に、イエスはここを去ってガリラヤへ行かれた。

4:44 イエスはみずからはっきり、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」と言われたのである。

4:45 ガリラヤに着かれると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。それは、彼らも祭に行っていたので、その祭の時、イエスがエルサレムでなされたことをことごとく見ていたからである。

4:46 イエスは、またガリラヤのカナに行かれた。そこは、かつて水をぶどう酒にかえられた所である。ところが、病気をしているむすこを持つある役人がカペナウムにいた。

4:47 この人が、ユダヤからガリラヤにイエスのきておられることを聞き、みもとにきて、カペナウムに下って、彼の子をなおしていただきたいと、願った。その子が死にかかっていたからである。

4:48 そこで、イエスは彼に言われた、「あなたがたは、しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じないだろう」。

4:49 この役人はイエスに言った、「主よ、どうぞ、子供が死なないうちにきて下さい」。

4:50 イエスは彼に言われた、「お帰りなさい。あなたのむすこは助かるのだ」。彼は自分に言われたイエスの言葉を信じて帰って行った。おかえりなさい

4:51 その下って行く途中、僕たちが彼に出会い、その子が助かったことを告げた。

4:52 そこで、彼は僕たちに、そのなおりはじめた時刻を尋ねてみたら、「きのうの午後一時に熱が引きました」と答えた。

4:53 それは、イエスが「あなたのむすこは助かるのだ」と言われたのと同じ時刻であったことを、この父は知って、彼自身もその家族一同も信じた。

4:54 これは、イエスがユダヤからガリラヤにきてなされた第二のしるしである。

●序論

先日まで、サマリヤの地でのひとりの女性との出会いをきっかけにして、滞在した2日間で多くの人々がイエスさまを信じるようになったことを見てきました。

:42…「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救い主であることが、わかったからである」

そこに民族的な遺恨や隔てがあったけれども、それをも埋めるキリストの言葉の真実の中に入れられた人々の姿です。

一方で今日、イエス様は自分の身内のガリラヤの人たちについてこう言われました。

4:44 イエスはみずからはっきり、「預言者は自分の故郷では敬われないものだ」と言われたのである。

その言葉をここでわざわざ取り上げた上で、ヨハネはこう記しています。

4:45 ガリラヤに着かれると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。

あれ?…と思う情景です。イエスさまが言われていたのと違う情景をわざわざヨハネは記している。その背景にある人の思いの違いをはっきり示すためです。

(LB):45 ところが、どうでしょう。ガリラヤの人たちは、大喜びでイエスを迎えたのです。それもそのはず、この人たちは過越の祭りの時にエルサレムにいて、イエスのなされたことを全部見ていたからです。

エルサレムでなされた数々の御業のうわさを聞いて、イエスさまに好奇心を寄せる故郷ガリラヤの人々がいました。でも、その人々の中にイエスさまに対する敬意が見られなかった…。イエスさまはこのことを「はっきり」言っておられたのです。

わたしたちがイエスさまを本当の意味で敬うことは大切です。なぜなら、それはすなわち「信仰」に強く結びつく態度であることが、今日わかります。

●序論

I. その人の中に愛を見る

4:46 …ところが、病気をしているむすこを持つある役人がカペナウムにいた。

4:47 この人が、ユダヤからガリラヤにイエスのきておられることを聞き、みもとにきて、カペナウムに下って、彼の子をなおしていただきたいと、願った。その子が死にかかっていたからである。

この役人は、あの当時のガリラヤ地方の支配者ヘロデ・アンティパスのもとで高い地位を与えられてその地方に権力をもって置かれたいた人物でした。

ある意味、ユダヤ人たちにとっては、サマリヤの人々、その中でさらに人々から遠ざけられていたあの女性。それとは別の意味で、さらに救いから遠い存在に思えたかもしれません。

そんな人が、遠く約30キロ近い距離を超え、イエスさまに懇願するためにきた。

その彼についてわかるのは、彼がひとりの息子の父であり、その息子をとても愛していたということです。

今、愛するその息子を助けてもらいたい、その願いが彼を突き動かしています。

その権力や力をもって、イエスと呼びつけるのでも、とらえて連れてくるのでもありません。自ら出向いてイエスさまに懇願する。まさにそこにはイエスさまを心から敬うゆえの態度と行動があります。

そして、そこまでする理由にはは、何よりも息子を助けてほしい、癒してほしい。あなたしかいないのです…という必死な願いがあったからです。

イエスさまは、わたしたちの内に何を見ておられるのでしょうか？

イエスさまは、その人の内にある本心に目を向けておられます。

この人が息子を心から愛している…と。

それは、ただの奇跡やみわざへの好奇心から近づくのではない。心からイエス様ご自身を求め、その心を見ておられ、その思いに伝えてくださるのです。

II. その人の中に信仰を見る

4:48 そこで、イエスは彼に言われた、「あなたがたは、しるしと奇跡とを見ない限り、決して信じないだろう」。

一見、はっきりと相手を非難するような言葉です。

それほど強く響くこの言葉は、彼だけでなく、「あなたがたは」とあるように、それ

をそこで聞くすべての人に、つまり好奇心からイエスさまに近づく人々に、そしてわたしたちにも向けられている言葉なのです。

そしてこの言葉が、その言葉をまっすぐに受け止める人の心を探るからこそ大切です。

わたしの関心は、イエスさまのなさるしるしと奇跡にしかいっていないのか、それともイエスさまご自身に向けられているだろうか？と。

この役人もその言葉を聞きました。

もし、この言葉がなかったならどうでしょう？

この後、彼は、イエスさまの言われるままに「信じて」帰途につかなければなりませんでした。その時、かれはイエスさまを連れて帰ることもできず、何も目に見えるものも確証もありませんでした。

けれども、彼は、その持てる限りの心を働かせてイエスさまを信じて従っていったのです。その姿に、あの言葉が効いているのです。

Ⅲ. その人の中に応答を見る

4:49 この役人はイエスに言った、「主よ、どうぞ、子供が死なないうちにきて下さい」。

なおも、必死で懇願する役人の姿があります。

それに対してイエスさまの答えがあります。

4:50 イエスは彼に言われた、「お帰りなさい。あなたのむすこは助かるのだ」。求めているものが、求めているように手に入らないと、葛藤を覚えることでしょう。しかし、イエスさまはわたしたちを自分の思い通りにならない「隔ての壁」を見せようとしているではありません。

イエスさまは、わたしたちの目を上げさせます。イエスさまがすでになしてくださったという信仰の世界に目を向けることをチャレンジされるのです。

「お帰りなさい。あなたのむすこは助かるのだ」と。

そして、聖書はこう語ります。

4:50b …彼は自分に言われたイエスの言葉を信じて帰って行った。

覚えていてください。わたしたちがこうしてほしいと思う、わたしたちのイメージと要望の中で、イエスさまはわざをなさるではありません。

イエスさまのみわざ、つまり神わざは、わたしたちの外、わたしたちを超えた神さまの御手の中にあり、わたしたちの祈りはそこで応えられていくのです。

だから、すばらしい！

子どもの頃、盗まれた自転車を見いだすまでの経験。

…わたしのとよく似ている自転車を、あそこので見かけたよ、という風に教えてもらったのです。

わたしはその時に、子ども心に「イエスさま助けて」と祈り、意を決して自転車を探しに出かけました。行く途中。「イエスさま助けて」と再びここで声にしたとき、唇から賛美が出てきたのです。「ただ信ぜよ、ただ信ぜよ、信じる者はたれも、皆、救われん」と。

歩きながらいっぱい歌いました。そして歌っているうちに、なぜか涙がいっぱい出てきました。そしてそうやって公園についた時に、そこに自分の自転車を見つけて、そして乗って帰った時、やはり同じ賛美をしていました。でもそこには涙ではなくて、本当に喜びがいっぱいだったのです。

聞いて、信じて、そして出かける。その子どもながら不安を抱える歩みを賛美を通して神さまが助けてくださったのです。

おそらく、あの役人がイエスさまの言葉を信じて、握りしめて帰る道中の数時間は、「ただイエスさまの言葉を信じるんだ」という心を働かせてたどった道ではなかったでしょうか。

そうやって、その道中聞いたその息子の回復のニュースはどれほどの喜びとなったことでしょうか。

4:51 その下って行く途中、僕たちが彼に出会い、その子が助かったことを告げた。

4:52 そこで、彼は僕たちに、そのなおりはじめた時刻を尋ねてみたら、「きのうの午後一時に熱が引きました」と答えた。

4:53 それは、イエスが「あなたのむすこは助かるのだ」と言われたのと同じ時刻であったことを、この父は知って、彼自身もその家族一同も信じた。

〇さいごに

この役人の家族には、息子が助かり、そしてさらに素晴らしいことが起こりました。彼自身も、その家族一同もイエスさまを信じたことが記されています。

どう信じたのか、まだキリストの十字架の出来事はありません。しかしあのサマリヤの人々と同様に、彼も告白できたと信じます。

:42 …自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救い主であることが、わかったからである」

ああ、イエスさまは素晴らしい。

今を生きるわたしたちには、キリストの十字架と復活で表された神さまの圧倒的な恵みがあります。

どんなにか小さく、また不純ささえ含むような私たちの信仰をもその言葉への応答を通して、神さま体験へと導いてくださるのです。

聖書を通してイエスさまをもっと親しく聞くこと、そして応答して歩むこと、そこに神さまの言葉とわざがあり、信仰生活の祝福と成長があることを改めて覚えましょう。